



那須教育事務所ふれあい学習課
〒324-0056 栃木県大田原市中央 1-9-9
Tel:0287(23)2177 FAX:0287(23)2193
Mail:nasu-kyouiku@pref.tochigi.lg.jp

Vol. 40 平成28年2月

次年度に向けて…

立春とは名ばかりで、寒い日が続いておりますが、体調はいかがでしょう。インフルエンザも流行っております。体調管理には十分お気を付けください。

さて、地域連携教員が設置され、2年が経過しようとしています。「地域連携教員」という言葉も定着し、各学校で様々な活動が展開されていることと思います。その中で成果や課題が新たに浮き彫りになってきているのではないのでしょうか。今号では、より充実した地域連携を目指して、次年度に向けてどのような取組ができるか考えていきたいと思ひます。

①今年度の成果と課題を明らかにする。

地域連携は目的ではなく、手段です。地域と連携した活動を実施できたことでよとするのではなく、地域連携によって目指したねらいが達成できたのか、ねらいとする子供像に迫ることができたのかなど、全職員でふりかえりを行うことが大切です。また、「児童生徒にとって」「学校・教職員にとって」「地域・保護者にとって」といった視点で成果や課題をまとめ、次年度に生かすと、より充実した地域連携を展開することができるのではないのでしょうか。

②成果と課題を全職員で共通理解する。

全職員で成果を確認することにより、地域連携への理解が深まり、地域連携に対する意識が高まるでしょう。また、課題解決のために様々な意見を出してもらおうと、次年度の計画作成に生かすことができます。

③次年度に向けた計画等の見直し及び作成

まず、地域連携に関する諸計画を見直してみましよう。特に、地域連携年間活動計画については、各学年ごとに見直しを行ってもらうとよいでしょう。今年度各学年で、授業や学校行事等で実施した地域連携に関する内容を確認してもらいましよう。簡単でよいので、活動内容や連絡先、留意点等をまとめて記述してもらおうとよいでしょう。また、今年度は実施できなかったが、地域と連携すると学習の効果をより上げることができる内容についても記述してもらおう

とよいでしょう。それを生かして、次年度の年間計画を作成しましよう。

地域連携推進計画や生涯学習全体計画等については、実態や願ひ（児童生徒、地域、保護者、教師等）、目標や目指す子供像等について、じっくり検討することが大切です。この部分をしっかり検討し、計画することにより、地域連携がより価値のある活動へとつながります。

こんなことができたらすばらしい！

<熟議のススメ>

「熟議」とは、協働を目指した対話のことをいいます。具体的には、下記のようなポイントを満たした、協働に向けた一連のプロセスを指します。

- ①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
- ②課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- ③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- ④解決策が洗練され、
- ⑤施策が決定されたり、個々人が納得して自分の役割を果たすようになる。

—文部科学省ホームページより—

STEP 1 教員による熟議

- ・どのような学校づくりをしたいか
- ・地域連携でどのような取組をしたいか
- ・地域に助けをもらいたいことはどういうことか

STEP 2

- 地域・保護者による熟議
- ・どのような子供たちに育てていきたいか
- ・学校にどのような協力ができるか
- ・どのような学校になったらいいのか

STEP 3 教員・保護者・地域による熟議

- ・地域と協力し合った学校づくりとは？
- ・育てたい学校像とは？



上記のような活動を取り入れることは、なかなか難しいことですが、保護者会や学年部会等で「どんな子供たちに育ててほしいか」「そのために、どんな協力ができるか」などを、ちょっと話し合ってみるだけでも価値あることかもしれません。それを計画の中に反映させることができれば、すばらしいことだと思います。

各学校の実情に合わせて、次年度に向けてよりよい活動を目指し、準備を進めていただければと思います。